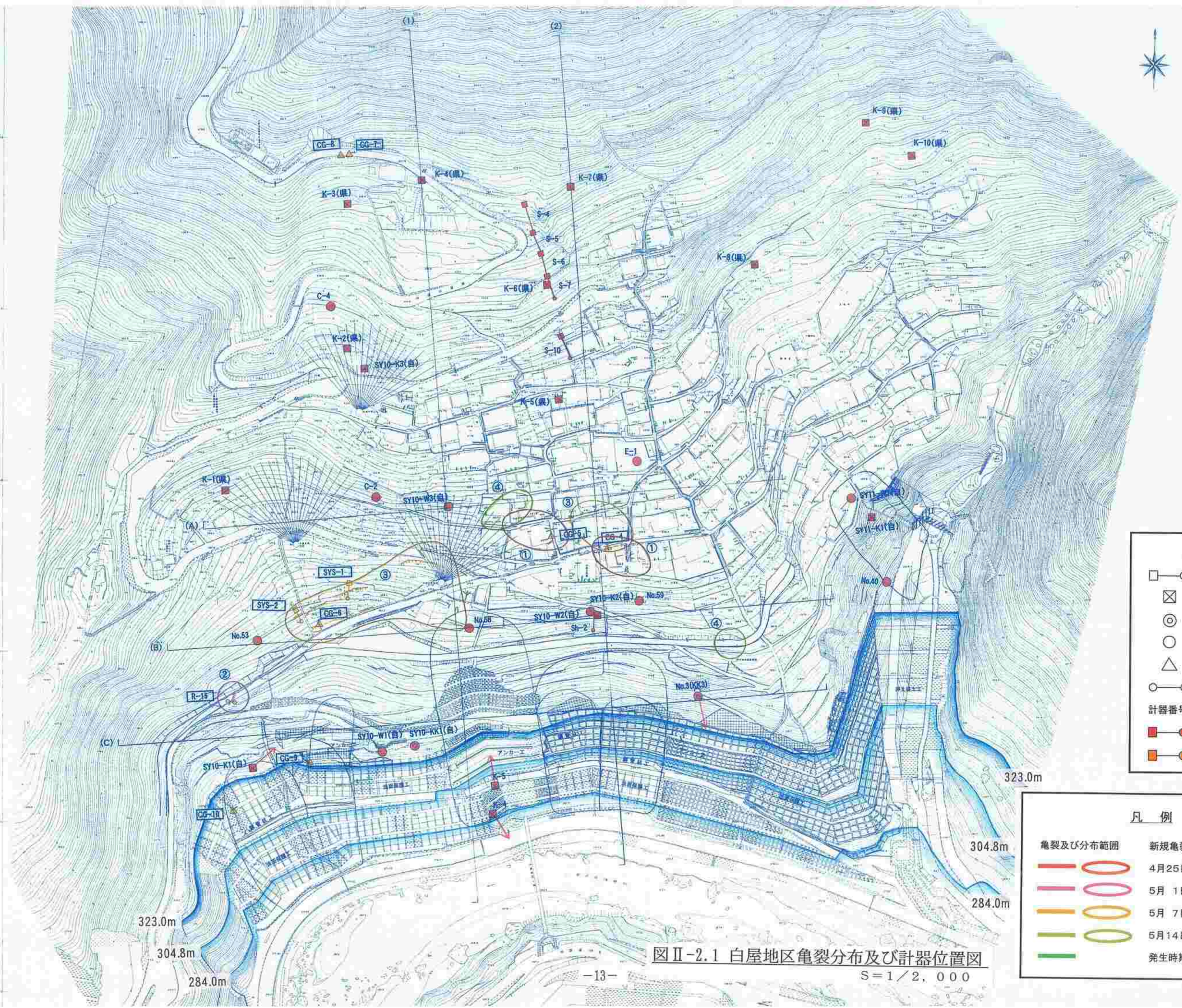


観測データの確認		
事 項	要 点	備 考
2 . 亀裂確認及び計測結果	<p>(1) 亀裂現象確認状況</p> <p>白屋地区において新たに発生したと推定される亀裂現象は4月25日～5月14日にかけて確認された。なお、白屋地区全体において発生時期は不明であるが、多数の亀裂が確認されている(図 -2.1)。</p> <p>(2) 計測結果</p> <p>地盤傾斜計 SY10-K1,2において4月9日より変動量が増大し、K1では4月28日まで北方向に14.7秒/日、東方向に15.8秒/日、5月11日まで北方向に6.3秒/日、東方向に6.7秒/日の変動を示し、5月11日の水位維持後は、北方向は変わらず、東方向は1.0秒/日と収束傾向にある。 K2では4月23日まで北方向はほぼ変動なし、東方向に2.3秒/日、5月7日まで北方向に1.1秒/日、東方向に0.3秒/日の変動を示し、それ以降は対岸道路で現在施工中の横ポーリングの工事の影響を受けている。 斜面上部に設置されたSY10-K3については、変動は確認されない。 またSY08ブロックにおいて末端部ブロック積擁壁の変動状況を確認する目的で設置しているK-4,5については、下部ブロック積み擁壁に設置されたK-4は水没後谷側方向への傾斜変動、上部ブロック積み擁壁に設置されたK-5は水没中は山側へ傾斜変動を示し、水没後は同一方向に僅かな変動を示している。</p> <p>孔内傾斜計 孔内傾斜計No.3は、4月3日より深度51.5m付近で変動を示し、5月11日の水位維持まで増加傾向にあるものの、水位維持以降は僅かに変動量の減少が確認される。</p> <p>地下水位 地下水位はSY10-W1,2及びNo.58で貯水位と相関している。SY10-W1, No.58は、極めて敏感に貯水位に追従しており、SY10-W2は当初5日程度の遅れがあったが、27日以降は追従している。</p> <p>地盤伸縮計 今回の亀裂発生に伴い設置された計器SYS-1,2については、設置当初の変動量に比較して、水位維持後は収束傾向にある。 Sh-2は施工中道路土工により、引張り変動を示していたが、その後湛水開始時期に再び引張り変動が確認され、4月上旬から変動量が増加していたが、その後収束傾向にある。ただし計器の近辺で横ポーリングの工事が行われており、傾斜計K-2と同様影響を受けている。</p> <p>クラックゲージ他 白屋進入道路の5月1日に確認された亀裂のピン計測(R-15)及びCG-5,6の変動量は拡大している。ただしR-15は16日以降減少傾向にある。</p>	



凡例

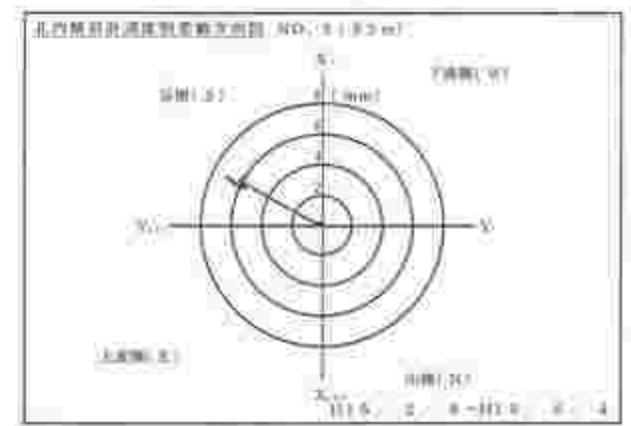
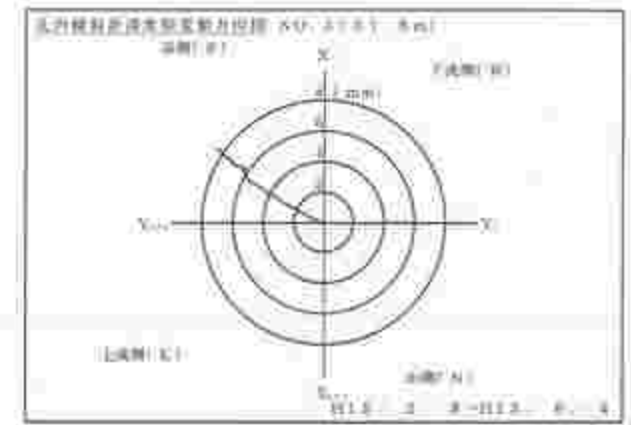
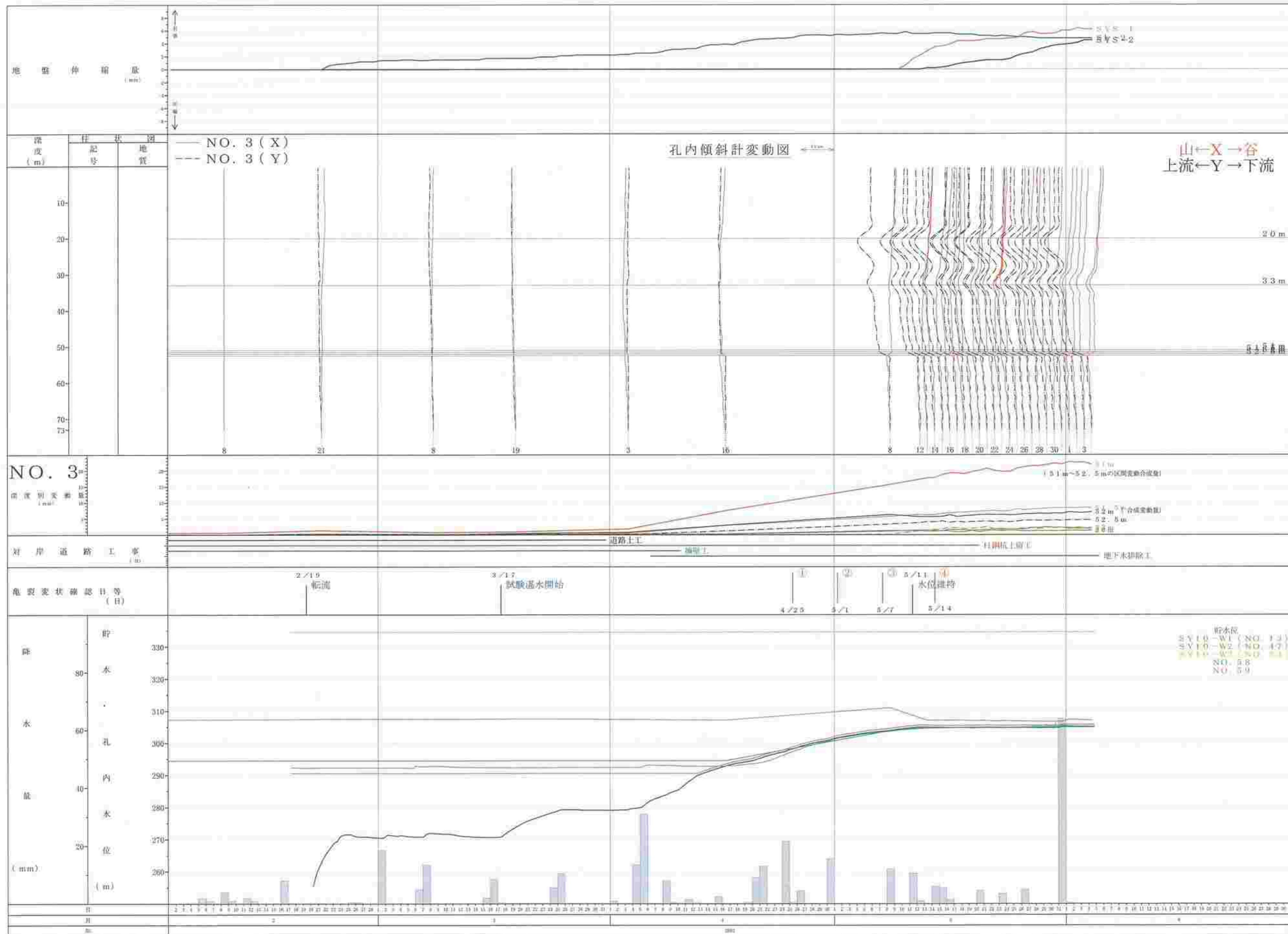
	地盤伸縮計
	地盤傾斜計
	孔内傾斜計
	地下水水位計
	クラックゲージ
	ピン計測
	計器番号(自) 自動観測計器
	既設計器
	新設計器

凡例

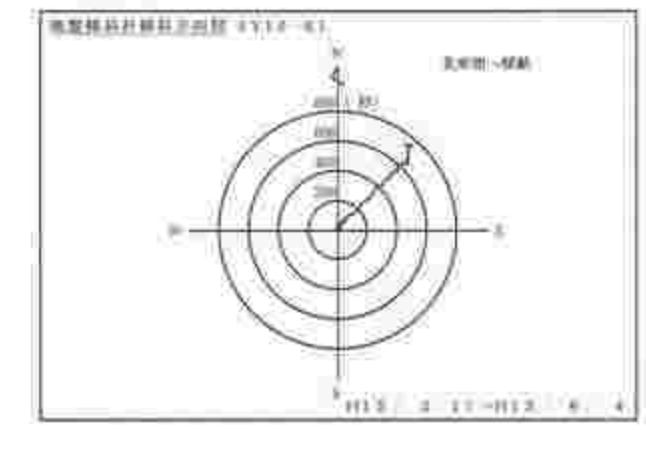
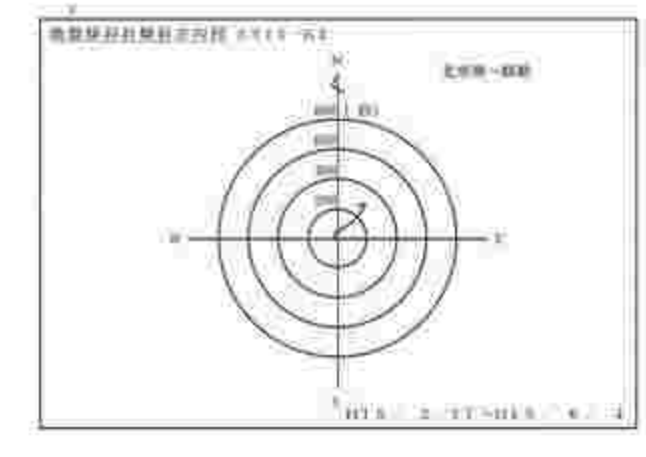
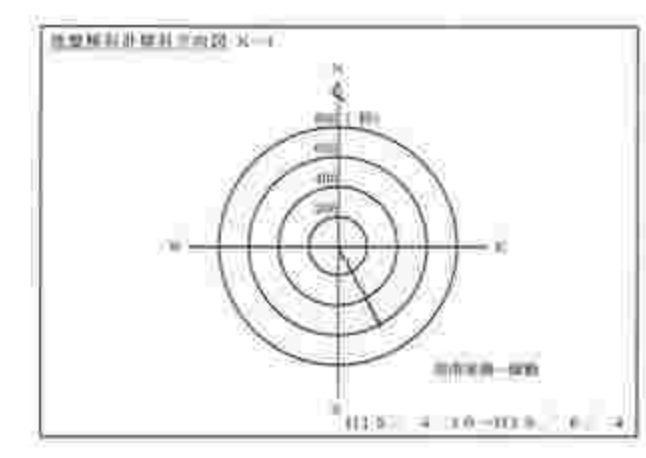
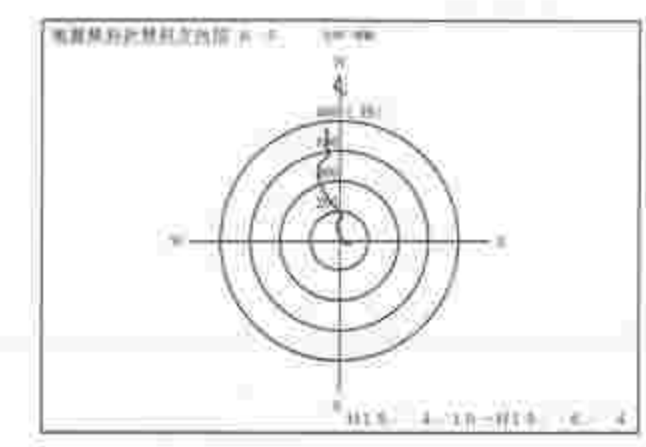
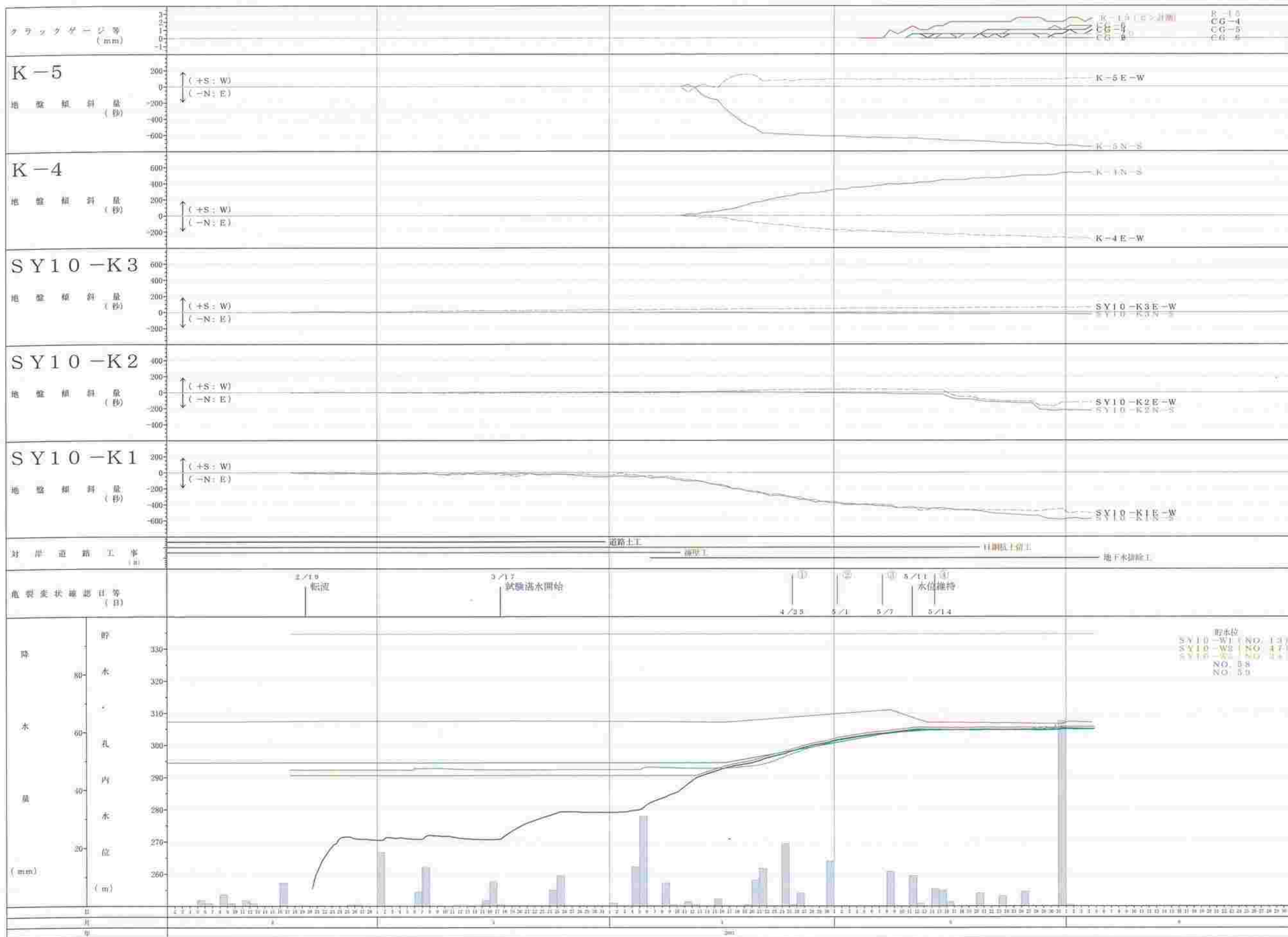
	亀裂及び分布範囲	新規亀裂確認日
		4月25日 ①
		5月1日 ②
		5月7日 ③
		5月14日 ④
		発生時期の不明な亀裂

図Ⅱ-2.1 白屋地区亀裂分布及び計器位置図

S=1/2,000

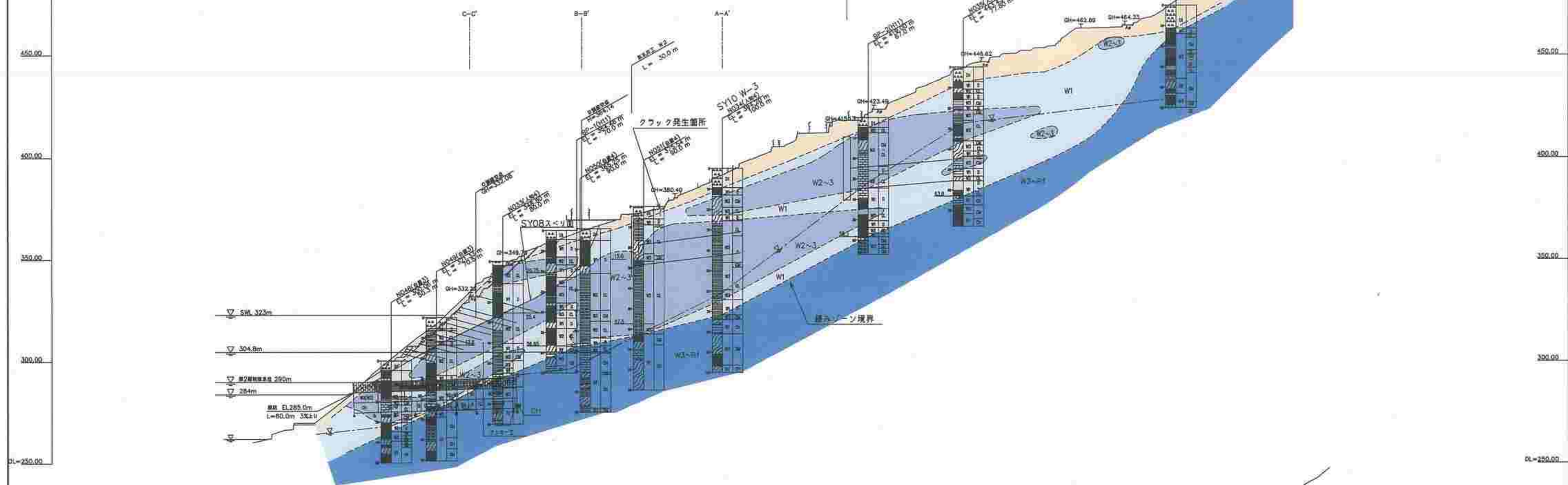


図Ⅱ-2.2 計器変動総括図 平成15年2月～6月 (その1)

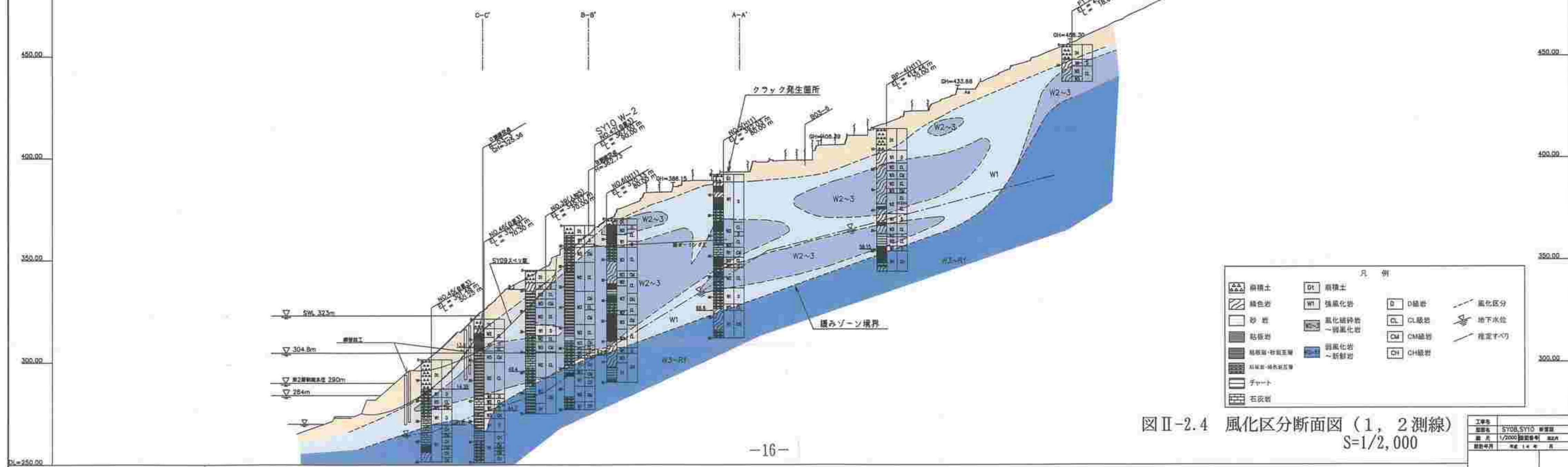


図II-2.3 計器変動総括図 平成15年2月~6月 (その2)

風化区分図 (1 測線)
S=1:2,000



風化区分図 (2 測線)
S=1:2,000



凡 例			

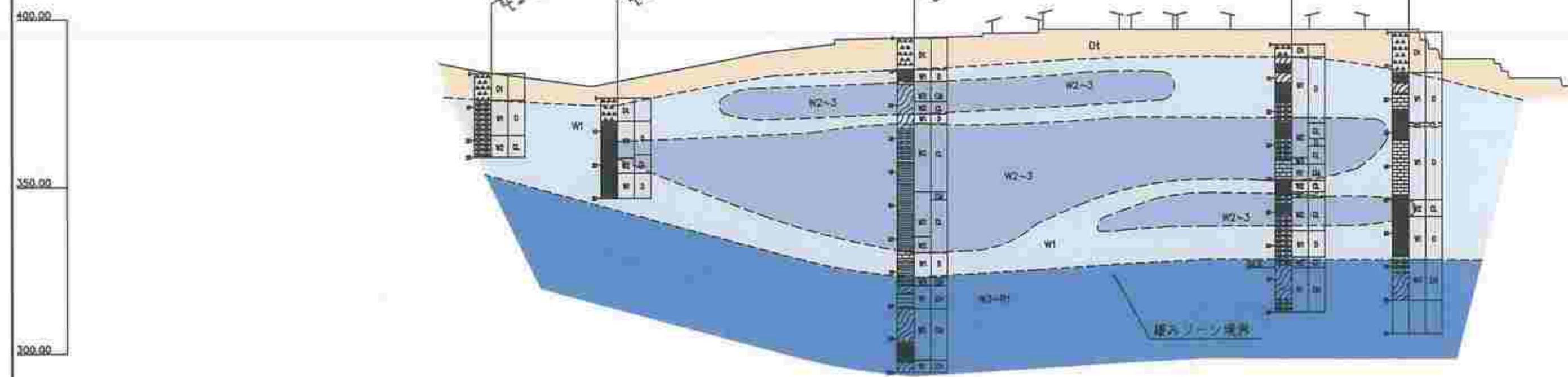
図Ⅱ-2.4 風化区分断面図 (1, 2 測線)
S=1/2,000

工事名	SY08, SY10 調査
縮尺	1/2000 縮尺
図面番号	図Ⅱ-2.4
作成者	

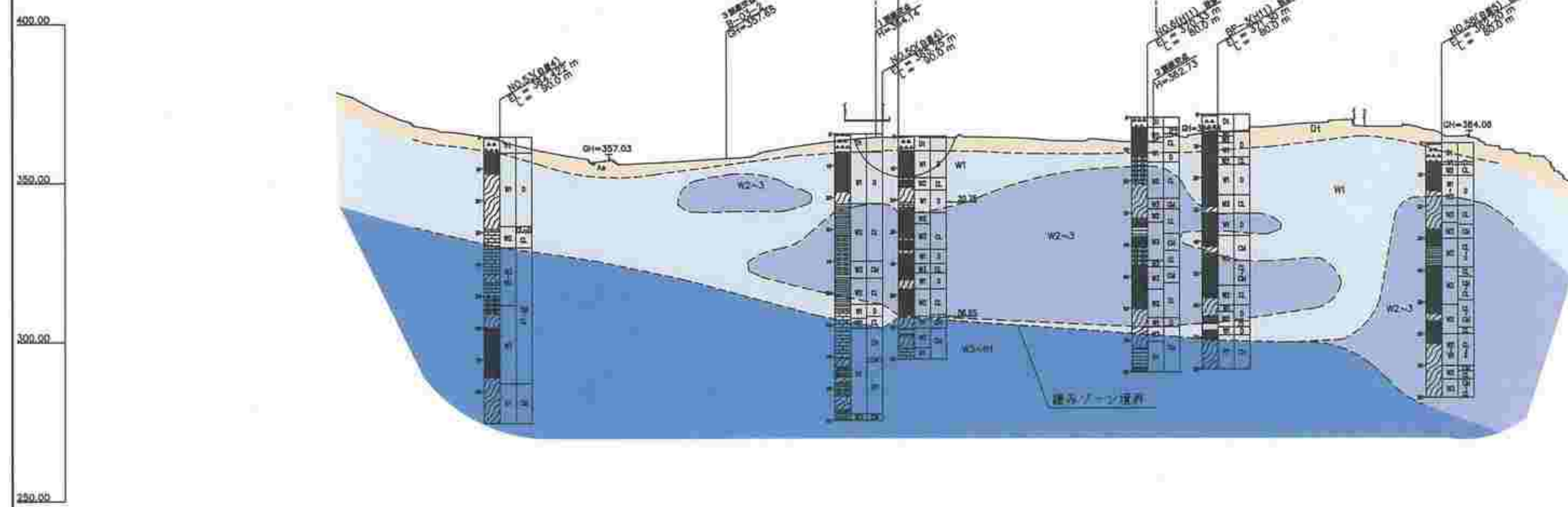
風化区分図
(A側線、B測線、C測線)

S=1:2,000

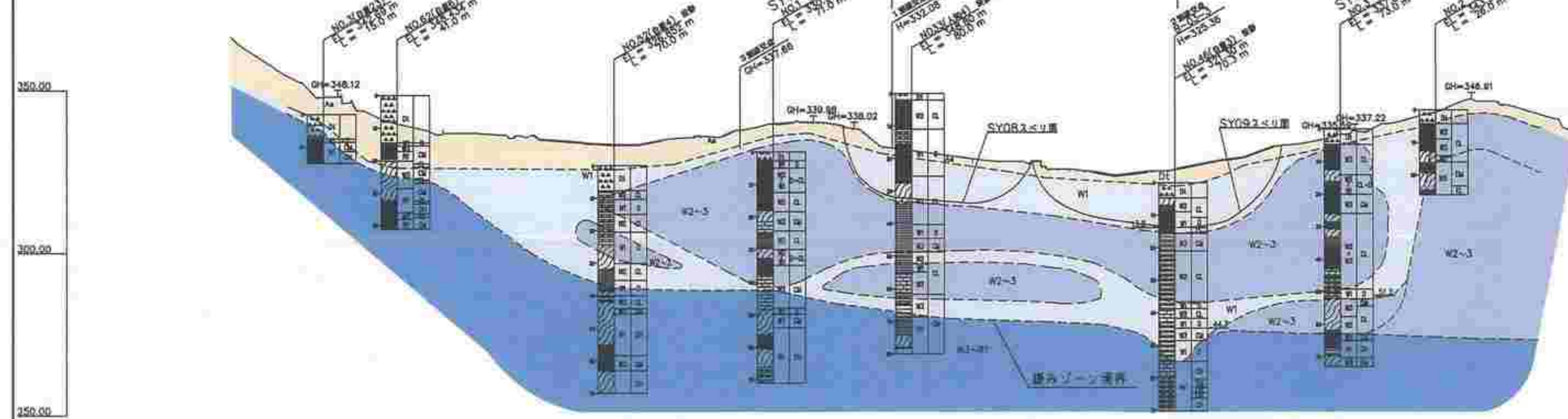
A-A' 断面



B-B' 断面



C-C' 断面



凡例

図II-2.5 風化区分断面図 (A, B, C測線)
S=1/2,000

工号	A-C測線 断面図
縮尺	1/2000 縮尺参照
図式	1/2000 縮尺参照
資料年月	昭和 14 年 月